

複合的資源管理型漁業促進対策事業*

抄 録

－ タチウオ－

吉村 晃一・向野 幹生

目 的

和歌山県のタチウオ漁獲量は全国第1位であり、県下漁獲量の約80%を箕島町漁協所属の小型底びき網漁船が漁獲している。現在の資源管理計画の内容は、魚捕り部（袋網）を現行の13節から8節に拡大することによるタチウオ小型魚の保護であるが、網目拡大による水揚金額の減少等の問題から、漁協全体には普及していない。平成7～9年度には、漁業新技術開発事業により、タチウオと小エビ類の選択漁獲が可能な2階型網を開発した。しかし、現状の操業形態からみて実用化には作業性を向上させる改良が必要となった。

これらを踏まえ、本年度から開始された複合的資源管理型漁業促進対策事業では、資源管理を徹底させるために、さらに操作性に優れた小型で効率の良いタチウオ網を開発・普及することを目的としている。

なお、詳細については「平成10年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書、和歌山県」（平成11年3月）に報告されている。

方 法

- 1 漁業実態調査 箕島町市場のタチウオ漁獲量・漁獲努力量・水揚金額の把握
- 2 標本船調査 箕島町漁協所属小型底びき網船に漁獲内容、操業状況等の日誌記入を依頼した。
- 3 生物生態調査 試験操業での漁獲物の魚体測定

結 果

1 漁業実態調査

農林水産統計による和歌山県タチウオ漁獲量の経年変化と箕島町漁協小底2級船による銘柄別月別漁獲量の推移から1998年は2、3月の漁獲量減少、特に銘柄小の漁獲割合の減少が目立った。

2 標本船調査

1996～1998年における銘柄別月別漁獲量・C P U Eについて整理を行った。標本船の1隻はタチウオ網（魚捕り部の目合い13節）以外に荒網（魚捕り部の目合い10～12節）を使用してマダイ、マガツオ、ヒラメなど高級魚対象とした操業を行っている。1998年は8、9月にタチウオの秋漁が盛漁となった。

* 水産業振興費による。

3 生物生態調査

タチウオの改良網は2階型網から作業性・操作性を考慮して魚捕部の袋網部をチャックによる交換ができるように開発した。先に、問題点として示された小エビ類の漁獲減少を13節網操業で補い、洋上で8節網に簡単に取り替えることができる使用に合った考え方から採用された。

このチャック式改良網の試験操業は1998年11月10日、1999年3月27日の2回行った。いずれも現行の13節網とチャック式による8節網を現場で当業船を使用して、同様な海域で操業を行い漁獲性能を比較した。袋網の交換作業についても大きな問題はなく、改良網の性能は十分実用に耐えることが証明された。